

初級日本語学習者による助詞「は」・「が」・「を」の習得過程

井内 麻矢子

要旨

本研究は初級日本語学習者4名を対象とした縦断的第二言語習得研究で、初級日本語学習者の中間言語のシステムを、助詞の習得という観点から解明することを試みている。外国人学習者にとって日本語の助詞は習得が困難とされているが、今回は、助詞「は」「が」「を」を取り上げ、その習得過程に関する考察及び先行研究との比較検証を行った。その結果、①「は」「が」間での誤用は一定の学習期間を経た後で増加する傾向が見られる、②学習の早い段階における「は」「が」「を」の正用順序は「を」>「は」>「が」で、先行研究に多く見られる「は」>「を」>「が」とは一致しない、ということが分かった。

[キーワード] 縦断的第二言語習得研究・中間言語・助詞の習得・正用順序

1. はじめに

初級段階における日本語学習は基本的な文法の習得が主となっており、中でも助詞学習の占める比重は大きい。第二言語学習者の内部には、学習者の母語でもなく、学習目標の言語でもない、学習者独自の言語システムが構築されると考えられ、それを「中間言語」と呼んでいる。学習者は学習言語を習得していく過程において様々な仮定をたて、それを検証することを繰り返し、その時々によって内在する中間言語構造も変化していると推測される。助詞の習得過程においても同様のことがいえるが、その詳細はまだ明らかではない。助詞の習得に関する横断的調査はいくつか見られるが、それらは習得過程の一面を示すのみで、連続した学習過程を提示したものは少ない。本研究では4名の初級学習者を対象とし縦断的にその学習過程を調査分析することにより、その詳細を明らかにしようとするものである。分析の対象としては、学習初期段階に導入され使用頻度も比較的高い助詞「は」「が」「を」を取り上げた。

2. 研究概要

2-1. 対象学習者

本研究の対象となった学習者は以下の4名である。

	学習開始年齢	出身	母語	職業
学習者A (女性)	22	ニュージーランド*	英語	埼玉県AET
学習者B (男性)	22	ニュージーランド*	英語	埼玉県AET
学習者C (女性)	22	アメリカ	英語	埼玉県AET
学習者D (男性)	24	デンマーク	デンマーク語	数学研究員

*AET: Assistant English Teacher

2-2. 学習期間

本研究で取り上げた学習期間は以下の通りである。授業は実習期間以後には週1回(約2時間)の頻度で行った。

	学習期間	学習時間
実習	1992/8/8~8/15	18h
実習後	1992/9/18~1993/12/17	114h

*実習: 1992年度日本語文化専攻夏期日本語教育実習

2-3. 学習内容

1) 主教材: An Introduction to Modern Japanese (The Japan Times)

第1課~第22課

2) 副教材: 24 Tasks for Basic Modern Japanese Vol.1 (The Japan Times)

2-4. 分析資料

分析の対象としたのは学習開始後第7週~第71週の間に行われた約20回分の穴埋め式筆記試験(助詞テスト)と、第10週~第71週の間に書かれた学習者の自由作文(日記)の2点である。

2-5. 分析方法

それぞれの助詞が助詞テストでは選択されるべき箇所、日記では使用されるべき箇所において正しく使用されている場合を正用とし、それ以外を誤用とした。誤用には、1) 誤選択、2) 脱落、3) 付加の3種がある。(下例参照)

〈助詞「は」の誤用例〉

- 1) 「に」の誤選択；しけん に どうでしたか。
- 2) 「は」の脱落；ここでたばこをすって × いけません。
- 3) 「は」の付加；そのくろい は カメラをください。

これらをもとに正用率、誤用率、その他を百分率で算出した。また、習得の推移を見るため学習期間を以下の3期に分けている。

I期；学習開始(92. 8. 8)～学習開始後第25週(93. 1. 30)

II期；第26週～第50週(93. 7. 24)

III期；第51週～第71週(93. 12. 18)

3. 分析結果及び考察

3-1. 助詞「は」「が」「を」の習得状況

3-1-1. 分析結果

2-5.の手法をもちい、各学習者ごと、各助詞ごとにどのような誤用を起こしているかを分析した結果(詳細は本稿末添付の《資料》参照)、助詞テストと日記に共通して見られた誤用傾向は以下の3点であった。

- ① 「は」「が」間での誤用がII期に増えている。
- ② ①の傾向において、どちらかという「は」の過剰般化傾向が強い。
- ③ 「が」は「は」に限らず過剰般化される傾向が強い。

3-1-2. 結果考察

「は」「が」間での誤用がII期から増える傾向については第25週に導入された学習項目「連体修飾節」に関連があると思われる。この学習項目においては次のような変換ドリルが行われている。

私 は この映画を見ました。→ これは私 が 見た映画です。

下線で示したように同じ語を受ける助詞が「は」から「が」に変わっている。この練習が第26週以降の「は」「が」間での誤用に影響したのではないかと考えられる。また、この学習項目に限らず、第25週以降に連続して「が」を使用する表現が導入されている。このように、助詞の新しい機能の導入が原因とな

り、初期段階では現れなかった誤用が現れたことが考えられる。

3-2. 助詞「は」「が」「を」の正用順序

3-2-1. 分析結果

助詞テスト及び日記における助詞「は」「が」「を」の期毎の正用順序は以下の通りであった（詳細は本稿末添付の《資料2》参照）。

〈助詞テスト及び日記における正用順序〉

学習者A

I	助	を>は>が	日	を>は>が
II	詞	を>が≧は		を>が≧は
III	テ	を>は≧が	記	を>が≧は

学習者B

I	助	を>は≧が	日	を≧は>が
II	詞	を>が≧は		を>は≧が
III	テ	を>は>が	記	は>が>を

学習者C

I	助	を>は>が	日	を>は>が
II	詞	を>が≧は		を>は>が
III	テ	を≧は>が	記	は>が=を

学習者D

I	助	を≧は>が	日	を≧は>が
II	詞	を>は≧が		は≧を>が
III	テ	を≧は>が	記	を>は≧が

これらの結果より、正用率による助詞の正用順序について以下のことが分かった。

- 〔1〕 助詞「は」「が」「を」のうち「を」は三期を通じて一番高い正用率を示す傾向がある。
- 〔2〕 助詞「は」と「が」では「は」の方が正用率が高い場合が多く、逆転するときは差が少ない。
- 〔3〕 〔1〕と〔2〕より、本研究の初級日本語学習者における、助詞「は」「が」「を」の正用順序は「を」>「は」>「が」と推測できる。

3-2-2. 結果考察

本研究の正用率をもとにした助詞の正用順序が、主として「を」>「は」>「が」であったという結果は、「を」が「は」より正用率が高いという点において、ほとんどの先行研究^(註1)と一致しない。調査方法の違い等、様々な要因が考えられるが、何より被験者となった学習者のレベルの違いが関係している

と思われる。先行研究のほとんどが、日本に滞在している中級以上の学習者を対象としているのに対し、本研究の学習者は滞日期間こそ1年をこえるものの、総学習時間は約130時間と、日本語能力試験4級の想定する初級前期の学習時間150時間にも満たない。また、3-1-2.で述べた「新しい機能の導入がその助詞における誤用を増やす」という仮説を支持するならば、第59週に「通過の空間を示す」という機能が導入されるまで、事実上「行為の対象を示す」という単機能であり、一定の決まった動詞述部と結びつきやすかった「を」の正用率が、学習が進むにつれ下がるといふことも考えられる。これらの考察により、「を」>「は」>「が」という正用順序は、初級学習者の一つの習得段階に過ぎず、今後「は」>「を」>「が」という正用順序に変わっていくという習得過程の予測がなりたつことになる。

4. おわりに

本研究は被観察者4名のケーススタディである。初級学習者の助詞習得過程の詳述は、ほぼなし得たとは思いますが、今後の課題として、もっと多彩な学習者を対象とし、今回得られた仮説の追検証を行っていく必要がある。またデータの収集分析方法をもっと多角的にし、研究の深化をはかりたいと思っている。

〔謝辞〕本稿はお茶の水女子大学人文科学研究科日本語文化専攻における修士論文の一部に加筆修正したものであるが、本研究をまとめるにあたり、水谷信子先生、また長友和彦先生に数々の御助言を頂いた。心から感謝を申し上げたい。

(注1)

今回取り上げた先行研究は以下の9論文である。これらのうち「を」>「は」>「が」という本研究と一致する正用順序となったのは石田(1991)のみであった。

Russel, R.A. (1985) "An Analysis of Student Errors in the Use of Japanese -WA and -GA."

PAPERS IN LINGUISTICS 18-2

Sakamoto, T. (1993) "On Acquisition Order: Japanese Particles WA and GA."

PROCEEDINGS OF THE 4TH CONFERENCE ON SECOND LANGUAGE RESEARCH IN JAPAN

国際大学大学院国際関係学研究所言語学プログラム

Yagi, K. (1992) "The Accuracy Order of Japanese Particles." 『世界の日本語教育』2 国際交流基金

石田敏子 (1991) 「フランス語話者の日本語習得過程」 『日本語教育』75号

- 久保田美子(1993)「第二言語としての日本語の縦断的習得研究—初級学習者を対象として—」
お茶の水女子大学修士論文
- 小森早江子・坂野永理(1988)研究会発表要旨：「集団テストによる初級文法の習得について」
『日本語教育』64号
- 土井利幸・吉岡薫(1988)「助詞の習得における言語運用上の制約--ピーネマン・ジョンストンモデルの日本語
習得研究への応用 1)」
PROCEEDINGS OF THE 1ST CONFERENCE ON SECOND LANGUAGE ACQUISITION AND TEACHING
THE LANGUAGE PROGRAMS OF THE INTERNATIONAL UNIVERSITY OF JAPAN
- 長友和彦 (1990)「誤用分析研究：日本語の中間言語の解明へ向けて」 『第2言語としての日本語の教授
・学習過程の研究』 平成元年度科学研究費補助金（一般研究(B)）研究成果報告書
- 松田由美子・斎藤俊一(1992)「第2言語としての日本語学習に関する縦断的事例研究」
『世界の日本語教育』2 国際交流基金

〈参考文献〉

- Banno, E. & S. Komori. (1989) "A STUDY OF JAPANESE ACQUISITION ORDER." 『白馬夏季言語学会論文集』第3号
白馬夏季言語学会
- Yoshioka, K., Y. Tamaru, & S. Kimura (1992) "Longitudinal development of Japanese sentence structures:
a case of oral production by six learners." WORKING PAPERS UOL.3
THE LANGUAGE PROGRAMS OF THE INTERNATIONAL UNIVERSITY OF JAPAN

(お茶の水女子大学人間文化研究科)

《資料》

《助詞テストにおける助詞「は」「が」「を」の習得状況》 (i)内%

学習者A

「は」

A	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択								付加及び誤用先								
				脱落	が	を	に	へ	で	の	から	その他	付加	が	を	に	で	の	も	から
I	48	28	20	1	0	0	3	0	2	2	0	1	1	0	0	0	4	5	1	0
期	(58.3)	(41.7)	(2.1)			(8.3)		(4.2)	(4.2)		(2.1)	(2.1)				(8.3)	(10.4)	(2.1)		
II	85	45	40	4	5	2	2	3	1	3	1	1	4	9	1	1	0	1	1	1
期	(52.9)	(47.1)	(4.7)	(5.9)	(2.4)	(2.4)	(3.5)	(1.2)	(3.5)	(1.2)	(1.2)	(4.7)	(10.6)	(1.2)	(1.2)		(1.2)	(1.2)	(1.2)	
III	84	44	29	1	5	3	0	0	0	3	0	0	0	5	2	1	0	0	0	0
期	(68.8)	(31.3)	(1.8)	(7.8)	(4.7)					(4.7)				(7.8)	(3.1)	(1.8)				

「が」

A	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択					付加及び誤用先							
				脱落	は	を	に	も	付加	は	を	に	で	も	じゃ	か
I	17	9	8	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	1	0	0
期	(52.9)	(47.1)					(17.6)				(23.5)		(5.9)			
II	58	32	27	2	9	3	0	0	2	5	2	1	0	1	1	1
期	(54.2)	(45.8)	(3.4)	(15.3)	(5.1)				(3.4)	(8.5)	(3.4)	(1.7)		(1.7)	(1.7)	(1.7)
III	58	38	17	0	5	3	0	2	0	5	0	0	2	0	0	
期	(67.9)	(32.1)		(8.4)	(5.7)		(3.8)		(9.4)				(3.8)			

「を」

A	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択					付加及び誤用先					
				脱落	は	が	へ	の	付加	は	が	に	で	か
I	30	25	5	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
期	(83.3)	(16.6)	(18.0)						(3.3)					(3.3)
II	56	41	15	2	1	2	2	1	2	2	3	0	0	0
期	(73.2)	(26.8)	(3.6)	(1.8)	(3.6)	(3.6)	(1.8)	(3.6)	(3.6)	(5.4)				
III	44	38	11	1	2	0	0	0	0	3	3	1	1	0
期	(75.0)	(25.0)	(2.3)	(4.5)					(8.8)	(6.8)	(2.3)	(2.3)		

学習者B

「は」

B	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択								付加及び誤用先								
				脱落	が	を	に	へ	で	の	と	その他	付加	が	を	に	で	の	も	じゃ
I	54	37	17	1	0	0	2	0	0	0	0	1	2	1	1	1	3	2	3	0
期	(68.5)	(31.5)	(1.9)				(3.7)				(1.9)	(3.7)	(1.9)	(1.9)	(1.9)	(5.8)	(3.7)	(5.8)		
II	85	41	44	1	13	1	1	1	1	2	2	2	6	10	0	1	0	0	1	2
期	(48.2)	(51.8)	(1.2)	(15.3)	(1.2)	(1.2)	(1.2)	(1.2)	(1.2)	(2.4)	(2.4)	(2.4)	(7.1)	(11.8)		(1.2)		(1.2)	(2.4)	
III	88	58	18	1	4	1	0	0	0	1	0	0	0	10	1	0	0	0	0	0
期	(73.5)	(26.5)	(1.5)	(5.9)	(1.5)					(1.5)				(14.7)	(1.5)					

「が」

B	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択					付加及び誤用先					
				脱落	は	を	に	も	付加	は	を	に	で	その他
I	17	11	6	0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	0
期	(64.7)	(35.3)		(5.9)							(29.4)			
II	89	34	35	2	10	1	1	0	1	13	3	2	0	2
期	(40.3)	(50.7)	(2.9)	(14.6)	(1.4)	(1.4)		(1.4)	(18.2)	(4.3)	(2.9)		(2.9)	
III	58	31	22	0	10	1	4	1	0	4	0	0	2	0
期	(58.5)	(41.5)		(18.0)	(1.8)	(7.5)	(1.8)		(7.5)				(3.8)	

「を」

B	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択					付加及び誤用先						
				脱落	は	が	へ	で	の	付加	は	が	に	も	か
I	43	32	11	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	2	3
期	(74.4)	(25.6)	(2.3)	(2.3)					(2.3)			(7.8)	(4.7)	(7.8)	
II	55	42	19	1	0	3	1	1	1	1	1	1	1	0	2
期	(76.4)	(23.8)	(1.8)		(5.5)	(1.8)	(1.8)	(1.8)	(1.8)	(1.8)	(1.8)	(1.8)	(1.8)		(3.8)
III	39	31	8	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0
期	(79.5)	(20.5)	(2.8)	(2.8)				(2.8)	(2.8)	(2.8)	(2.8)	(2.8)	(2.8)		

学習者C

「は」

C	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択							付加及び誤用先									
				脱落	が	を	に	で	の	と	物他	付加	が	を	へ	で	の	も	と	から
I	81	37	14	1	0	0	2	0	0	0	1	2	0	1	0	2	3	0	2	0
期	(72.5)	(27.5)	(2.0)				(3.0)				(2.0)	(3.0)		(2.0)		(3.0)	(5.0)		(3.0)	
II	88	47	39	7	3	0	2	0	5	1	0	3	7	6	1	0	0	2	1	1
期	(54.7)	(45.3)	(8.1)	(3.5)			(2.3)		(5.0)	(1.2)		(3.5)	(8.1)	(7.0)	(1.2)			(2.3)	(1.2)	(1.2)
III	74	47	27	1	4	3	0	1	1	0	0	0	12	1	1	2	1	0	0	0
期	(83.5)	(36.5)	(1.4)	(5.4)	(4.1)			(1.4)	(1.4)				(16.2)	(1.4)	(1.4)	(2.7)	(1.4)			

「が」

C	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択						付加及び誤用先									
				脱落	は	を	に	の	か	付加	は	を	に	で	の	じゃ	と		
I	18	18	8	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
期	(82.5)	(37.5)	(8.3)			(8.3)								(25.0)					
II	48	27	22	0	7	5	1	0	1	1	3	1	0	0	1	2	0		
期	(55.1)	(44.9)		(14.3)	(10.2)	(2.0)			(2.0)	(2.0)	(8.1)	(2.0)			(2.0)	(4.1)			
III	56	39	28	0	12	2	2	1	1	0	4	2	0	1	0	0	1		
期	(59.6)	(46.4)		(21.4)	(3.0)	(3.0)	(1.8)	(1.8)		(7.1)	(3.0)			(1.0)					(1.8)

「を」

C	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択					付加及び誤用先						
				脱落	は	が	に	で	付加	は	が	に	で	も	か
I	36	29	7	1	1	0	0	1	2	0	1	0	0	1	0
期	(80.0)	(19.4)	(2.8)	(2.0)				(2.0)	(5.0)		(2.0)			(2.0)	
II	54	35	19	3	6	1	0	0	2	0	5	0	0	0	2
期	(64.8)	(35.2)	(5.0)	(11.1)	(1.0)				(3.7)		(9.3)				(3.7)
III	44	28	16	2	1	2	2	0	0	3	2	2	2	0	0
期	(63.6)	(36.4)	(4.5)	(2.3)	(4.5)	(4.5)			(6.0)	(4.5)	(4.5)	(4.5)			

学習者D

「は」

D	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択						付加及び誤用先						
				脱落	が	を	に	の	も	付加	が	へ	に	で	の	と
I	45	37	8	1	0	0	0	0	0	0	2	1	3	1	0	0
期	(82.2)	(17.8)	(2.2)								(4.4)	(2.2)	(6.7)	(2.2)		
II	88	53	15	8	0	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1
期	(77.9)	(22.1)	(11.0)				(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.5)		(1.5)			(1.5)
III	54	39	15	0	5	2	0	2	0	0	5	0	0	0	1	0
期	(72.2)	(27.8)		(9.3)	(3.7)			(3.7)			(9.3)				(1.0)	

「が」

D	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択					付加及び誤用先						
				脱落	は	を	に	で	付加	は	を	に	じゃ	と	
I	18	8	8	1	2	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0
期	(50.0)	(50.0)	(6.3)	(12.5)									(31.3)		
II	42	31	11	5	1	2	0	0	1	0	0	0	1	1	
期	(73.8)	(28.2)	(11.9)	(2.4)	(4.0)				(2.4)				(2.4)	(2.4)	
III	46	38	18	0	5	1	3	1	0	5	1	0	0	0	
期	(85.2)	(34.8)		(10.9)	(2.2)	(6.5)	(2.2)		(10.9)	(2.2)					

「を」

D	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択			付加及び誤用先				
				脱落	が	で	付加	は	が	に	と
I	32	27	5	3	0	1	0	0	0	0	1
期	(84.4)	(15.6)	(8.4)	(3.1)							(3.1)
II	49	44	5	2	0	0	1	0	2	0	0
期	(90.0)	(10.2)	(4.1)				(2.0)		(4.1)		
III	36	28	9	2	1	1	1	2	1	1	0
期	(74.3)	(25.7)	(5.7)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(5.7)	(2.0)	(2.0)	

〈日記における助詞「は」「が」「を」の習得状況〉 (0内%)

学習者A

「は」

A	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択			付加及び誤用先				
				脱落	が	に	付加	が	を	に	も
I	82	71	11	0	0	0	4	2	0	4	1
期		(86.6)	(13.4)				(4.9)	(2.4)		(4.9)	(1.2)
II	117	87	30	5	1	7	7	6	1	3	0
期		(74.4)	(25.6)	(4.3)	(0.9)	(6.0)	(6.0)	(5.1)	(0.9)	(2.6)	
III	38	28	9	5	0	0	1	4	0	0	0
期		(73.7)	(26.3)	(13.1)			(2.6)	(10.5)			

「が」

A	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択				付加及び誤用先				
				脱落	は	を	に	じゃ	付加	は	に	補河
I	14	6	8	3	2	2	0	0	1	0	0	0
期		(42.9)	(57.1)	(21.4)	(14.3)	(14.3)			(7.1)			
II	51	38	13	0	6	1	3	1	0	1	0	1
期		(74.5)	(25.5)		(11.8)	(2.0)	(5.9)	(2.0)		(2.0)		(2.0)
III	23	18	5	0	4	0	0	0	0	0	1	0
期		(78.3)	(21.7)		(17.4)						(4.3)	

「を」

A	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択				付加及び誤用先			
				脱落	は	に	で	付加	が	へ	に
I	64	59	5	1	0	0	0	0	2	1	1
期		(92.2)	(7.8)	(1.6)					(3.1)	(1.6)	(1.6)
II	98	88	10	0	1	3	1	1	1	1	2
期		(89.8)	(10.2)		(1.0)	(3.1)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(2.0)
III	58	53	5	0	0	2	0	3	0	0	0
期		(91.4)	(8.6)			(3.4)		(5.2)			

学習者B

「は」

B	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択						付加及び誤用先				
				脱落	が	を	に	へ	の	付加	が	に	で	の
I	114	93	21	0	0	0	0	1	2	12	1	2	1	2
期		(81.6)	(18.4)					(0.9)	(1.8)	(10.5)	(0.9)	(1.8)	(0.9)	(1.8)
II	93	75	18	2	3	1	3	0	0	3	5	0	1	0
期		(80.6)	(19.4)	(2.2)	(3.2)	(1.1)	(3.2)			(3.2)	(5.4)		(1.1)	
III	49	45	4	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0
期		(91.8)	(8.2)		(2.0)		(2.0)				(2.0)	(2.0)		

「が」

B	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択						付加及び誤用先	
				脱落	は	を	に	へ	で	付加	は
I	16	7	9	2	1	1	3	1	1	0	0
期		(43.8)	(56.3)	(12.5)	(6.3)	(6.3)	(18.6)	(6.3)	(6.3)		
II	41	32	9	0	5	0	0	1	0	0	3
期		(78.0)	(22.0)		(12.2)			(2.4)			(7.3)
III	23	19	4	0	1	2	0	0	0	0	1
期		(82.6)	(17.4)		(4.3)	(8.7)					(4.3)

「を」

B	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択				付加及び誤用先			
				脱落	へ	の	付加	は	が	に	
I	46	38	8	0	0	0	6	0	1	1	
期		(82.6)	(17.4)				(13.0)		(2.2)	(2.2)	
II	43	39	4	1	0	1	1	1	0	0	
期		(90.7)	(9.3)	(2.3)		(2.3)	(2.3)	(2.3)			
III	28	21	7	1	2	0	1	0	2	1	
期		(75.0)	(25.0)	(3.6)	(7.1)		(3.6)		(7.1)	(3.6)	

学習者C

「は」

C	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択				付加及び誤用先							
				脱落	が	に	と	付加	が	を	に	で	の	と	備考
I期	55 (76.4)	42 (23.6)	13 (7.3)	4 (7.3)	0	2 (3.6)	2 (3.6)	2 (3.6)	0	1 (1.8)	0	1 (1.8)	1 (1.8)	0	0
II期	71 (73.2)	52 (26.8)	19 (8.5)	6 (8.5)	0	3 (4.2)	0	2 (2.8)	6 (8.5)	0	1 (1.4)	0	0	0	1 (1.4)
III期	26 (80.8)	21 (19.2)	5 (19.2)	0	1 (3.8)	0	0	2 (7.7)	1 (3.8)	0	0	0	0	1 (3.8)	0

「が」

C	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択				付加及び誤用先				
				脱落	は	を	の	付加	は	を	備考	
I期	9 (55.6)	5 (44.4)	4 (44.4)	1 (11.1)	0	0	0	1 (11.1)	0	2 (22.2)	0	
II期	29 (51.7)	15 (48.3)	14 (48.3)	7 (24.1)	6 (20.7)	0	0	0	0	0	1 (3.4)	
III期	15 (60.0)	9 (40.0)	6 (40.0)	0	1 (6.7)	2 (13.3)	1 (6.7)	1 (6.7)	1 (6.7)	0	0	

「を」

C	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択				付加及び誤用先					
				脱落	は	が	に	な	付加	が	に	の	も
I期	62 (83.9)	52 (16.1)	10 (16.1)	2 (3.2)	1 (1.6)	2 (3.2)	0	1 (1.6)	3 (4.8)	0	1 (1.6)	0	0
II期	57 (91.2)	52 (8.8)	5 (8.8)	2 (3.5)	0	0	1 (1.8)	0	0	0	1 (1.8)	0	1 (1.8)
III期	30 (60.0)	18 (40.0)	12 (40.0)	2 (6.7)	0	0	1 (3.3)	0	4 (13.3)	2 (6.7)	2 (6.7)	1 (3.3)	0

学習者D

「は」

D	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択				付加及び誤用先					
				脱落	が	を	に	で	付加	が	を	に	備考
I期	64 (87.5)	56 (12.5)	8 (12.5)	4 (6.3)	0	1 (1.6)	0	0	1 (1.6)	2 (3.1)	0	0	0
II期	62 (79.0)	49 (21.0)	13 (4.8)	3 (4.8)	0	0	1 (1.6)	0	2 (3.2)	4 (6.5)	1 (1.6)	0	2 (3.2)
III期	40 (72.5)	29 (27.5)	11 (5.0)	2 (5.0)	2 (5.0)	0	1 (2.5)	1 (2.5)	1 (2.5)	1 (5.0)	2 (5.0)	0	1 (2.5)

「が」

D	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択				付加及び誤用先	
				脱落	は	を	に	付加	は
I期	15 (73.3)	11 (26.7)	4 (13.3)	2 (13.3)	2 (13.3)	0	0	0	0
II期	33 (60.6)	20 (39.4)	13 (24.2)	8 (12.1)	4 (3.0)	1	0	0	0
III期	30 (70.0)	21 (30.0)	9 (6.7)	2 (6.7)	2 (3.3)	1 (3.3)	1 (3.3)	1 (3.3)	2 (6.7)

「を」

D	総数	正用	誤用	脱落及び誤選択				付加及び誤用先					
				脱落	は	で	に	付加	は	が	の	と	
I期	37 (91.9)	34 (8.1)	3 (5.4)	2 (5.4)	0	0	0	0	1 (2.7)	0	0	0	0
II期	33 (75.8)	25 (24.2)	8 (12.1)	4 (3.0)	1 (3.0)	1 (3.0)	0	0	1 (3.0)	1 (3.0)	0	0	0
III期	29 (93.1)	27 (6.9)	2 (6.9)	0	0	0	0	0	1 (3.4)	0	1 (3.4)	0	0

《資料2》

〈助詞テストにおける助詞「は」「が」「を」の正用率の推移〉(表内単位%)

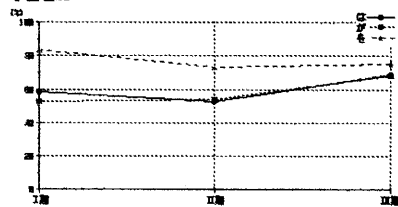
1. A助詞テ	は	が	を
I期	58.3	52.9	83.3
II期	52.9	54.2	73.2
III期	68.8	67.9	75

2. B助詞テ	は	が	を
I期	68.5	64.7	74.4
II期	48.2	49.3	76.4
III期	73.5	58.5	79.5

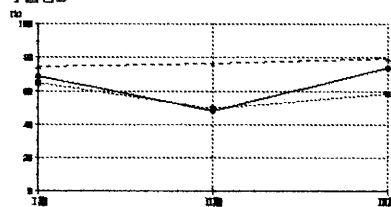
3. C助詞テ	は	が	を
I期	72.5	62.5	80.6
II期	54.7	55.1	64.8
III期	63.5	53.6	63.6

4. D助詞テ	は	が	を
I期	82.2	50	84.4
II期	77.9	73.8	89.8
III期	72.2	65.2	74.3

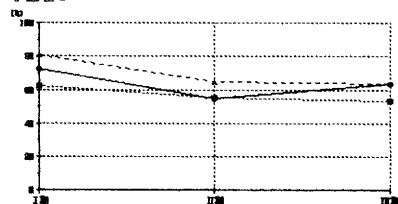
学習者A



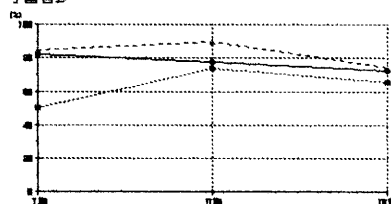
学習者B



学習者C



学習者D



〈日記における助詞「は」「が」「を」の正用率の推移〉(表内単位%)

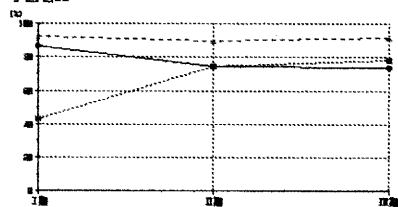
1. A日記	は	が	を
I期	86.6	42.9	92.2
II期	74.4	74.5	89.8
III期	73.7	78.3	91.4

2. B日記	は	が	を
I期	81.6	43.8	82.6
II期	80.6	78	90.7
III期	91.8	82.6	75

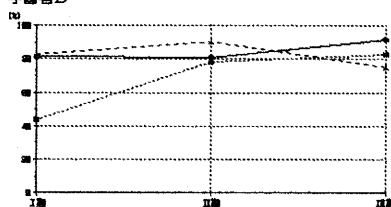
3. C日記	は	が	を
I期	76.4	55.6	83.9
II期	73.2	51.7	91.2
III期	80.8	60	60

4. D日記	は	が	を
I期	87.5	73.3	91.9
II期	79	60.6	75.8
III期	72.5	70	93.1

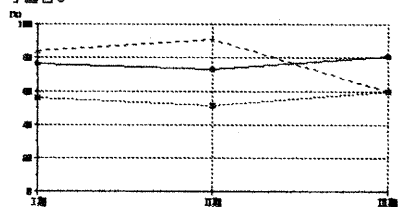
学習者A



学習者B



学習者C



学習者D

